

審査結果の要旨

| | | | |
|---|------------|-------|-------|
| 報告番号 | 乙 第 3023 号 | 氏名 | 姉川 英志 |
| 審査担当者 | 主査 | 深井 圭 | (印) |
| | 副主査 | 田山 栄基 | (印) |
| | 副主査 | 田原 宜広 | (印) |
| 主論文題目： Improvements of predictive power of B-type natriuretic peptide on admission by mathematically estimating its discharge levels in hospitalised patients with acute heart failure (心不全入院患者のナトリウム利尿ペプチドの規定因子の同定と予後予測性能改善に関する検討) | | | |

審査結果の要旨 (意見)

心不全にて入院した患者の入院時 BNP を詳細に解析し、予後予測式を作成している。退院時 BNP は予後との関連が既に報告されているが、これまで入院時 BNP から予後を予測した報告はなく、早期に予後予測が可能となることで、患者への治療介入をどの程度まで積極的に行うべきかについての判断の指標となるため、臨床的にも本研究の意義は深いと考える。近年、SGLT2 阻害薬や ARNI、MRA など心不全をターゲットとした新規治療がガイドラインでも first line の薬剤として使用されているが、この予測式から予後不良と推定された場合にどのような治療をどの程度積極的に行っていくべきかについて、さらなる前向きな検討を是非行ってほしい。さらに、入院前後の BNP 変化率 (心不全改善率) とベースラインの特性を解析することにより、どのような心不全患者にどのような積極的治療介入が必要か否かについて明らかとなる可能性があるため、是非継続して検討して頂きたいと思う。

論文要旨

脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) は心不全の予後予測因子として知られている。既出報告では入院時 BNP の予後予測能は退院時 BNP と比べて劣るとされているが、この違いに関するメカニズムは十分に解明されていない。我々は急性心不全で入院した連続 688 症例を対象に、入院時に得られた臨床データから退院時 BNP と関連した交絡因子を後ろ向きに検討した。その結果、退院時 BNP と有意に関連した因子として入院時 BNP に加えて、年齢、収縮期血圧、左室駆出率、左室拡張期末期圧、尿素窒素が関連していた。これらの交絡因子を用いて退院時 BNP を予測した数式(予測退院時 BNP)は、入院時 BNP よりも有意に予後予測能を有し、退院時 BNP と同等であった。以上より、これらの交絡因子が入院時 BNP の予後予測能の低下と関連していることが示唆され、交絡因子で調節することで入院時 BNP の予後予測能が向上することが示された。また、予測退院時 BNP を入院時に算出することにより、急性心不全の入院早期から個々のリスク層別化が可能となり、診療に活用できる可能性があると考えられる。